

4 身体づくりの教材・自教具

4-11	こんなボーリングゲームは、いかが？	S 部門	小学部
4-12	さつまいも ひっぱりっこ遊び	S 部門	小学部
4-13	あんしん鉛筆	S 部門	中学部
4-14	確認しよう！「健康の橋」	S 部門	中学部
4-15	手作りステんシルの型	S 部門	中学部
4-16	お米の作り方を知ろう	S 部門	中学部
4-17	身近なものでリースづくり	S 部門	中学部
4-18	紙をちぎります！	S 部門	中学部
4-19	簡単に補高	S 部門	中学部
4-20	小さな動きで大きな絵	S 部門	高等部

こんなボーリングゲームは、いかが？

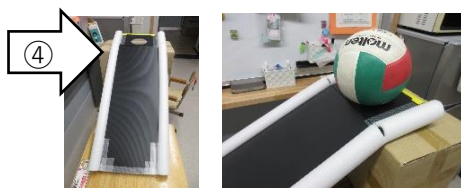
～実態・課題に合わせたゲームの工夫～

全体のイメージ



<工夫した点>

- ①ピンを置く場所を児童の目の高さに近づけた。
- ②児童のテーブルから、ピン台までレーンを渡し、ボールを転がすようにした。
- ③レーンの長さは、転がしたボールでピンが倒れたことが分かり、転がるボールを追視しやすいように、児童の実態に応じて短くする。
- ④レーンにボールを置く穴をあけ、切り込みを入れて傾斜が変えられるようにして、児童の手のわずかな動きでも転がるようにした。



対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

(E学習グループ)

自立活動を主とする 教育課程

人とのやり取りの楽しさが分かってきて、二項関係から、『自分一物一人』の三項関係の理解へと発達課題をもつ児童の学習集団です。

ねらい

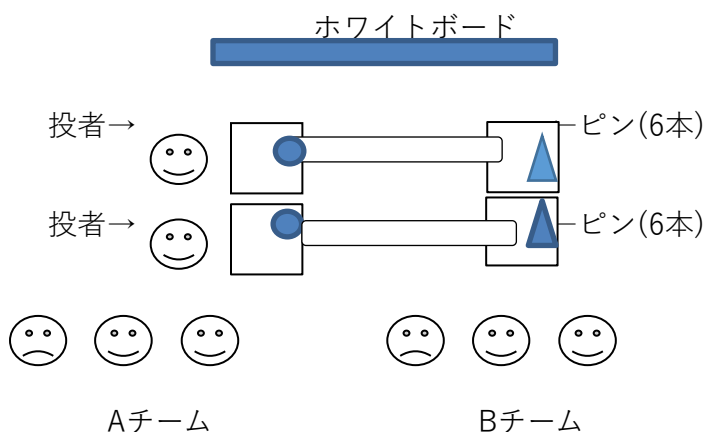
- ・ボールを見て触れて、自ら手指や腕を動かして転がそうとする。
- ・転がす方向を意識したり、ピンが倒れたことに気づいたりする。
- 『自分一ボール一目標』関係に気づく。

ポイント

- ・ピン(目標物)を置く位置を目線の高さに近づけた。
- ・二人同時にボールを転がして、先にピンを全部倒した方が勝ちというルールに変えて、児童が理解しやすいようにした。

教材の使い方、指導の実践例など

配置図



左図のような配置で行う。どちらかのピンがなくなるまで同じ相手で活動する方法では、待ち時間が長くなるが、ルールが分かりやすい。一方、1回投げたら次の児童に交代して活動する方法は、待ち時間が短くなるが、動きが複雑になる。児童の実態や活動のねらいによって、どのようなルールで行うか考えるとよい。

さつまいも ひっぱりっこ遊び ～取りやすいさつまいもの教材～



教材の使い方、指導の実践例など

- ・さつまいも掘りの事前、事後学習のために「さつまいもひっぱりっこ遊び」を行いました。
- ・「さつまいものおいも」の絵本を題材に、教員がさつまいものキャラクターに扮して、授業を進行しました。

- ・「小さな畑」(ティッシュの空き箱)の中にさつまいも教材を入れた状態で児童に配布する。
- ・「葉っぱを持って…」の合図で緑のひもを手で持ったり、ゴムを指や手首に固定する。
- ・絵本のセリフ「うんしょ!とこしょ!」のかけ声で、教職員と一緒に引っ張る。
- ・児童が手に力を入れたタイミングを見計らい「すっぽ～ん!」さつまいもを抜く。
- ・さつまいも教材を児童が見たり手に取ったりして確認できるようにする。



対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

(C 学習グループ)

自立活動を主とする 教育課程

- ・一人で、または教職員と一緒に対象物に注目し、手を動かすことを促したい児童・生徒

ねらい

- ・季節の野菜の「さつまいも」に親しむ。
- ・蔓に見立てた緑のひもを引っ張り、さつまいもの手作り教材を取ることで、「さつまいも掘り」を体験する。

ポイント

- ・緑のひもの先端についたゴムを、児童・生徒の指や手首に固定できるようにし、持ちやすくしました。
- ・さつまいもの中には鳴り笛が入っているため、音でも取ったことを確認できます。

あんしん鉛筆 ～ 握ってもいたくない ～



対象となる児童・生徒

S 部門 中 学部

(E学習グループ)

準ずる 教育課程

・鉛筆を握る際、接する部分が痛いと思う生徒。

ねらい

筆記等握り作業の能率を高める。

ポイント

・鉛筆以外にも、太さの違う筆などにも対応できる。ものにより薄い布を使用するときもある。(写真はタオルとボールペン)
・ゴムはストッパーになるので、必要に応じゴムの場所をずらす。

教材の使い方、指導の実践例など

★使用方法や道具を確認してから、調整する。

- ①タオル（薄い布）を用意する。
- ②鉛筆（筆）に巻いて握り具合を確認する。
- ③ゴムの位置を確認する。

※だんだんと薄い布にして、鉛筆（筆）を実際に握れるとよい。事例ケースでは、現在は直接握れるようになったため、ほとんど使用していない。

確認しよう！「健康の橋」

～最新の感染予防対策をお届け～

2 学期の「感染拡大防止対策」の御説明

光明学園と保護者をつなぐ

健康の橋



東京都立光明学園（校・病併置校）
令和 2 年 9 月 2 5 日（金）発行
健康・安全・安心の架け橋通信
校長 田村 康二郎

2 学期始業式から1ヶ月が過ぎました。1 学期の通常登校再開時には、極力2 部門の接触を避け、学習場所の制限をして「感染予防」に重きを置いてきました。2 学期は9 月1 4 日に東京都教育委員会から出された「新型コロナウイルス感染症対策と学校運営に関するガイドライン 改訂版 ver2」の方針を受け、「感染症予防策の推進」と「健やかな学びの充実」を両輪とし、教育活動を進めています。

- ガイドライン改訂版では、おもに以下のような内容が記載されています。東京都教育委員会のHP から閲覧することができます。
- ・健康診断の実施方法：換気・人数制限・手洗い等を徹底し、現在実施中です。
 - ・次亜塩素酸水を使っての物品消毒の有効性：トイレの消毒を中心に使用していきます。



対象となる児童・生徒

両部門 全学部

（全学習グループ）

全ての教育課程

教職員・保護者も対象

校内掲示板にアップ

学校ホームページでも公開

ねらい

・感染拡大状況や東京都教育委員会通知を受けて、最新の情報と学校としての対策を共有する。

ポイント

- ・毎回同じスタイルで「健康・安心・安全」に特化！
- ・写真や図を使って分かりやすく！
- ・重要な点は色やフォントを変えて強調！

教材の使い方、指導の実践例など

臨時休業中：「一時預かり支援」を含む、感染拡大状況や東京都教育委員会の通知等の情報を週1回郵送の「教材定期便」に封入・学校ホームページに掲載



- 学校再開後：感染対応の変更・再確認等、必要に応じて発行場面ごとの感染対策を教室・トイレ等に掲示
- 学園生・教職員：その場で確認
 - 保護者：学校の取組への理解・学校への協力



★感染拡大や収束等、取組に変更があった際にも発行→周知のツールへ

手作りステンシルの型

～秋～



対象となる児童・生徒

S 部門 中 学部

(B 学習グループ)

自立活動を主とする 教育課程

物をつかむことやつまむことができる生徒がいる。

ねらい

生徒が色や形を意識できるように型を使用して色を塗ることで、色のつくところ、つかないところを意識する(手指の動き視線の動き等)

ポイント

- ・100円ショップでA4サイズのクリアファイルを買ってきてペンで下書きをして、カッターで切り取った。
- ・季節を理解しやすいように食べ物の旬のものや行事を題材にした。

教材の使い方、指導の実践例など

- ・生徒が見通しをもてるように授業の始めに目の前で蝶や花の型を使ってステンシルの見本を見せた。
- ・美術の時間に画板に画用紙とステンシルの型を置いて、スポンジ筆を使って描いた。生徒によって力の入れ具合や手の動かし方が異なり、色々な風合いになり綺麗だった。色を重ねると出来上がりに深みが増す。
- ・最初は、何をやっているかわかりにくかったが、回数を繰り返していくうちにやるのが分かってきて、手をよく動かそうとしたり、手元をよく見ようとしたりするようになった。
- ・生徒が型をはがすと描いたものが浮き上がってくるので、そこに注目している生徒がいた。
- ・授業の最後に鑑賞の時間を設けたことで自分だけでなく友達作品にも注目している様子が見られた。
- ・光明祭や光明祭の展示ポスターに使用したことで、生徒の作品が学校の様々な場所に飾られ、生徒の作品が注目される機会が得られてよかった。

お米の作り方を知ろう ～ 簡単だっこく ～



対象となる児童・生徒

S 部門 中 学部

(D学習グループ)

知的障害を併せ有する 教育課程

・指先に力を入れてつまむことや両手を同時に使うことが難しい生徒のための教材です。

ねらい

・育てた稲穂の脱穀をすることで収穫の喜びを感じる。
・引くことだけに集中して、脱穀をする。
・稲作の苦勞が体験的にわかる。

ポイント

当初は、ペットボトルの口に割りばしを2本おいて行っていたのですが、生徒が自ら作業することはできませんでした。ふたに穴をあけたのですが、すべての脱穀工程を一人でできる生徒が増えました。

教材の使い方、指導の実践例など

- ・種もみをまいて苗を育てます。
- ・バケツの中で土を作り、苗を植えます。
- ・水を替えたり、水を足したりしながら育てます。
- ・中干をします。
- ・稲を刈って収穫します。
- ・稲穂からもみをとります。
- ・もみ殻を飛ばして玄米にします。
- ・精米します。

← ここで使います。

身近なものでリースづくり ～ おうちでクリスマス ～

対象となる児童・生徒

S 部門 中 学部

(D学習グループ)

知的障害を併せ有する 教育課程

・意図的に物をつかんだり、引っ張ったりすることができる生徒。

ねらい

・生活の中にあるものを生かし、クリスマスの雰囲気を感じる。

ポイント

紙皿や毛糸など、家にあるもので手軽に作れるのがリースである。車いすにもかざることができるため、より身近にクリスマスを感じることができる。

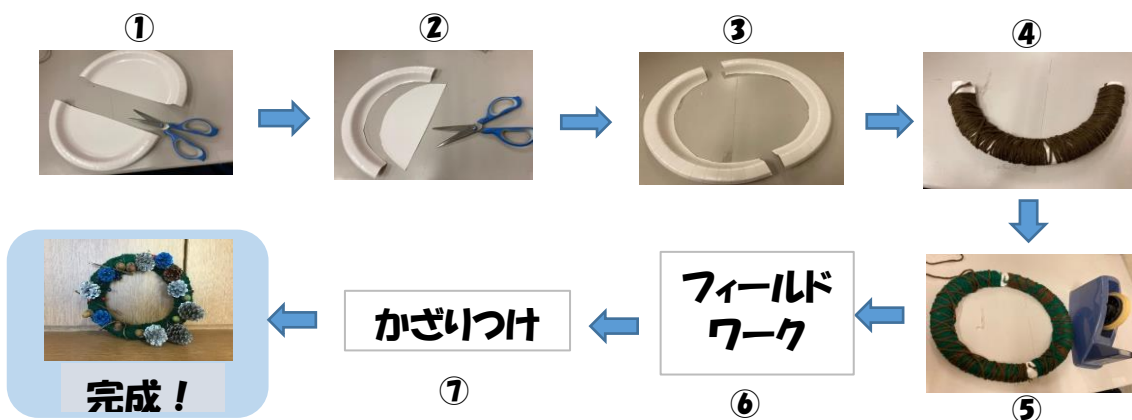
また、運動不足の予防で人の少ない公園等へ軽度な運動をしに行くついで、ふと地面をみることで、入手できるどんぐりや落ち葉を材料として使っている。

児童・生徒が家庭でも生かせる学習である



教材の使い方、指導の実践例など

- ・写真や映像等で手順を示しながら取り組んでいく。
- ・かざりつけに使うものは、フィールドワークを行って実際に採取する。(現在は校外の学習は難しいため、事前に用意したものを校内の庭に配置し、フィールドワークを行った。)



紙をちぎります！

～ビリッと破れると、腕が軽くなるんです～



対象となる児童・生徒

S 部門 全 学部

(B学習グループ)

全ての 教育課程

手の巧緻性が低く、指先でつまむことが難しい生徒が対象

ねらい

生徒が自分で新聞紙や紙を「ちぎる」活動に取り組むための教材

ポイント

紐やシュシュ、輪っかに紐をつけ、その先にクリップをつけます。クリップにちぎりたい紙を挟むと、指先で紙をつまむことが難しくても、自分の力でちぎることができます。

教材の使い方、指導の実践例など

新聞紙やお花紙を「ちぎる」という活動の際の教材です。美術作品や紙すきの際に使用しました。

①紐やシュシュ、輪っかに紐をつけ、その先にクリップをつける。これを2個製作する。

②一方を生徒の手や腕に装着し、もう一方を棒や手すりに装着する。

生徒の腕の可動範囲によっては、右手、左手に1個ずつ装着してもよい。

③両方のクリップに切り込みを少し入れた紙を挟む。紙が滑ってしまって挟めない場合には、クリップの内側に滑り止めを付ける等の工夫が必要。

④手や腕を動かすと紙をちぎることができる。

* 1人の教職員が複数の生徒と同時に活動をすることができます。

* 紙がちぎれないと、腕をいろいろな方向に動かして、「どうにかして紙をちぎろう」という動きがみられるようになってきました。

簡単に補高

～ちょっと高さを調整したいときに～



対象となる児童・生徒

S 部門 中 学部

(A学習グループ)

自立活動を主とする 教育課程

立位台で立つとき、片方だけ膝が伸びず、かかところが浮いてしまう…。

ねらい

左足の長さの左右差に対応させたい。

ポイント

- ・細かい高さの調整が可能
- ・作り方が簡単で、材料費はほぼ0円
- ・15mmの補高で、短い方の足にも体重が乗りました。

教材の使い方、指導の実践例など

- ・脚長差に対応したい、少しだけ足台を高くしたい、そんなときに活躍します。
- ・5mm、1cm、3cmなど様々な高さを作れば、それらの組み合わせによって微妙な調整にも簡単に対応できます。
- ・作り方は簡単です。ジャ●プやマ●ジンなど四角い少年誌をカッターで目的の高さになるよう薄くカット、あとはガムテープで補強するだけ。
- ・何よりも材料費は古雑誌とガムテープなので、ほぼ0円！

小さな動きで大きな絵 ～垂らし絵～

道具を傾けることで、絵の具がこぼれ垂らし絵ができる。



繰り返し何度も垂らすことで見通しを持つようにする。

対象となる児童・生徒

S 部門 中高 学部

(B学習グループ)

* 教育課程

自分の力で教材等を持つ・持ち続けることが難しく、なおかつ大きく手を動かしたり、手首を柔らかく動かしたりすることが困難な生徒

ねらい

- ・自分の加えて力によって、絵の具が垂れて偶然性の大きな軌跡を描く
- ・微細な動作でもダイナミックで大きな作品を作る経験をする

ポイント

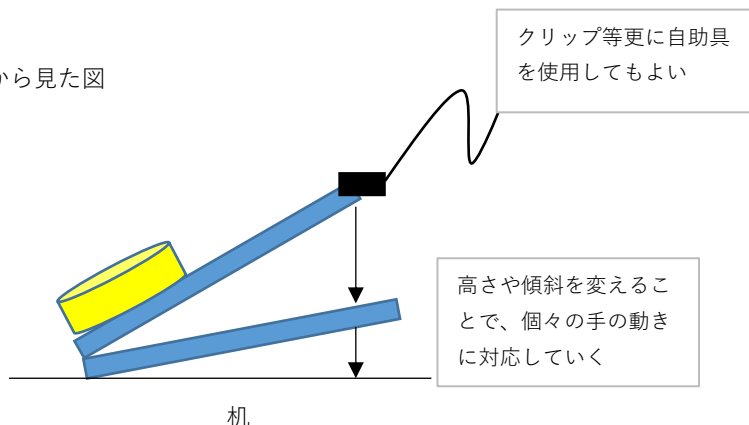
- ・絵の具のを容器ぎりぎりまで入れておく

教材の使い方、指導の実践例など

・絵の具をたっぷりと使うことがダイナミックに描くポイント。

・実態にあわせて自助具を使ったり、角度や高さを変えたりする等一回目に、しっかり調整することが重要です。

横から見た図



机